

介護人材確保の取組

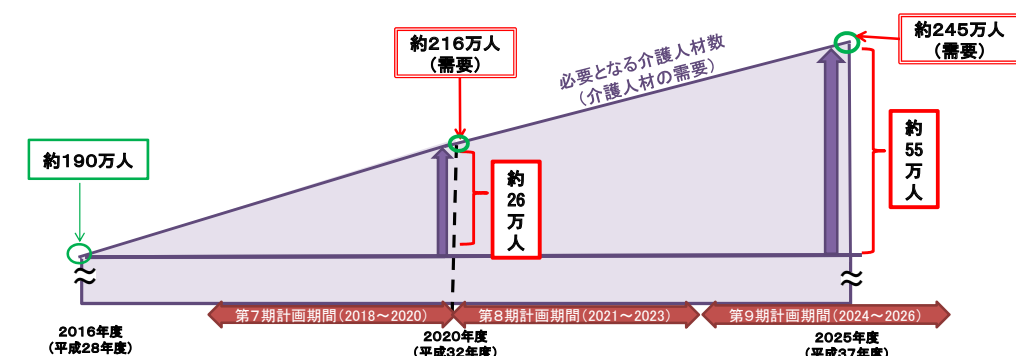
介護未経験者の介護分野への参入を促進

介護人材における 需給ギャップ

団塊の世代が全て75歳以上となる2025年には、高齢化率が30%を超え、福祉ニーズが増大し、介護職員の需給ギャップが生じると予想されています。

厚生労働省は、平成30年5月、第7期介護保険事業計画（2018～2020年度）の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護人材の需要について、2020年度末には約216万人、2025年には約245万人と公表しています。

これにより、2016年度末の約190万人に加え、年間6万人ほどの介護人材を確保する必要があります。



注1) 需要見込み (約216万人・245万人) については、市町村により第7期介護保険事業計画に位置付けられたサービス見込み量 (総合事業を含む) 等に基づく都道府県による推計値を集計したものである。

注2) 2016年度の約190万人は、「介護サービス施設・事業所調査」の介護職員数 (回収率等による補正後) に、総合事業のうち従前の介護予防訪問介護等に相当するサービスに従事する介護職員数 (推計値: 約6.6万人) を加えたものである。

(厚生労働省「第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について (平成30年5月21日)」別紙1より)

介護人材の確保に向けた取組

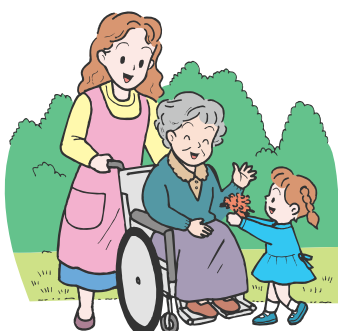
平成29年10月、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会では、「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」において、介護人材の確保のため、「介護未経験者を含む介護人材のすそ野を拡げるとともに、介護分野での定着を促進していく必要がある」とし、また、

介護人材のすそ野の拡大のためには、「介護分野への参入のきっかけ作り」として「介護職員初任者研修よりも受講しやすい入門的研修の導入が必要」とであると報告しました。

これを受けて、厚生労働省では、「介護に関する入門的研修の実施について」(平成30年3月30日 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長通知) を発出し、介護分野への介護未経験者の参入を促進

するため、より多くの方が介護を知る機会とするとともに、介護分野で働く際の不安を払拭できるよう、介護に関する入門的研修の実施を推進しています。

現在、介護人材確保への取組は、国の最重要課題の一つとなっています。



岩手県福祉人材センターの状況

岩手県福祉人材センターの無料職業紹介事業実績（表1）を見ると、新規求人数は増加しているものの、新規求職者数は減少しています。有効求人倍率（平均）は4倍を超え、全国同様に人材確保が難しい状況が見受けられます。

介護人材マッチング支援事業※の本年9月の実施状況報告（表2）では、介護職の経験がない求職登録者は164人で、登録者全体の約7割と多く、異業種に就業中で介護業界への転職を希望している求職者は11人となっています。

これらの状況から考えると、本県においても、介護未経験で介護業界に興味をもっている方の介護分野への参入を促進し、就労を支援していくことが、新たな介護人材の確保に有効であると考えられます。

なお、本県では、昨年度から「介護入門研修」（主催：岩手県、岩手県社会福祉協議会、岩手県福祉人材センター）を開始し、昨年度全カリキュラムを修了した受講者15名のうち、4名が介護分野への就労につながっています。

（表1）岩手県福祉人材センター・無料職業紹介事業実績の推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新規求人数(累計)	5,331人	5,035人	4,947人	4,569人	4,833人
新規求職者数(累計)	1,205人	1,041人	1,010人	1,135人	1,064人
有効求人数(平均)	1,249人	1,182人	1,171人	1,077人	1,156人
有効求職者数(平均)	333人	266人	272人	304人	275人
有効求人倍率(平均)	3.80	4.55	4.35	3.54	4.23

※ 介護人材マッチング支援事業

平成21年度から継続している国の事業。県内6か所にキャリア支援員7名を配置し、介護人材の掘り起こしと就労支援（マッチング）を目的に、個々の求職者にふさわしい職場の開拓、働きやすい職場づくりに向けた指導・助言等の事業を実施

（表2）介護人材マッチング支援事業・令和元年9月の求職者の状況

	失業中		就業中		就業中の方で転職を希望する理由			
	介護経験あり	介護経験なし	異業種からの転職希望	同業種からの転職希望	事業所の処遇や勤務内容への不満	自身のキャリアアップのため	介護業界への興味	その他
求職者数	63人	164人	11人	38人	8人	29人	7人	3人

岩手県福祉人材センターの令和元年度の取組

本年度は、「介護入門研修」を2回開催するとともに、受講者に介護施設見学バスツアーへの参加を促し、介護分野への就職希望者への就労支援を行います。

令和元年度第1回介護入門研修会

今年度第1回の研修会が、9月12日に開講し、介護に興味・関心があり介護の仕事未経験の方（定年により退職を予定している方、子育てが一段落した方、介護の仕事を検討している方等）を対象に、3週にわたり、3日間のカリキュラムで実施されました。

実際に介護業界で働いている方（岩手県介護福祉士会会員）を講師に迎え、高齢社会の現状、介護の問題、介護保険制度の概要等の「介護に関する基礎知識」、介護における体の動かし方、介護予防の重要性等の「介護の基本のほか」、認知症や障がいへの理解、ケアに向かう姿勢、介護の



理念、人権と尊厳の保持、高齢者の自立支援とはどういうことかなど講義を受けました。

受講者は、具体的な事例も交えた講師の話に耳を傾け、その人の自己決定を尊重し思いに寄り添うこと、その人が歩んできた道のりを理解し高齢期の生活を支えることなど、介護に向かう姿勢を学びました。

演習では、見えにくいゴーグルや聞こえにくいヘッドホンを装着し、手足に重りをつけた状態で、視力・聴力・筋力の低下により多くの感覚が衰える高齢者の状況を感じ、高齢者にとって日常的な

行動が難しいことの理解を図りました。また、車イスや視覚障がい者への食事介助法の体験、えん下障がいの理解と緊急時の対処法、ベッドと車イスを使った移乗・体位変換の講習を受け、「基本的な介護の方法」の理解を深めました。

受講者からは、「実際に家族の介護をしており介護技術の勉強が役立った」「受講内容がとても参考になった」「今度は介護職員初任者研修を受講したい」などの感想が聞かれました。



「介護の職場見学会」魅力発見バスツアー

9月30日に、入門研修受講者など、岩手県福祉人材センターに未登録で介護の仕事に関心のある方や、就労を希望している方を対象とした介護の職場見学会（バスツアー）が、盛岡市内で開催されました。

見学会では、特別養護老人ホームはなみずき（盛岡市南仙北／社会福祉法人いわて共同福祉会）、特別養護老人ホーム浅岸和敬荘（盛岡市浅岸／社会福祉法人岩手และ敬会）の2施設を訪問。それぞれ施設の方から、施設の特徴、職員の雇用形態、業務内容、働き方（正規、パートタイムの別、働く曜日や時間帯等シフト）の選択等について説明を受けた後、複数班に分かれて施設内を見学しました。

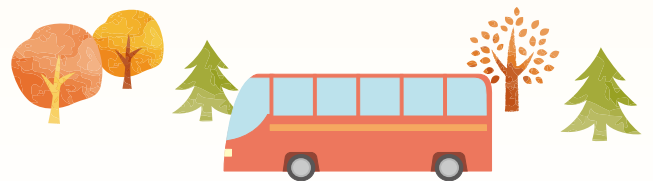
「はなみずき」は、自分たちが欲しい施設を作ろうという住民参加の運動により、全国から寄せられた4,700件を超える寄付により作られた施設で、職員は全国から期待を寄せられていることを自覚しながら業務に当たっている

こと、地域とのつながりを大切にしていること、全室個室のユニットケアを行っている、入居者には第二の我が家と思って生活していただきたいこと、入居者の人生そのものを支えていく仕事という使命感を感じていることなどの話がありました。

「浅岸和敬荘」では、介護もサービス業の一つであり、スタッフはプロ意識をもって働いていること、様々な業種からの転職者も多く、介護未経験でも心配はないこと、施設は入居者の生活の場であり、自分らしい生活を応援する、支える、お手伝いする仕事であること、これまでの貴重な人生経験を生かせる場であることなどの話がありました。

どちらの施設も、パート職員は働く曜日や時間帯を選ぶことができ、生活に見合ったいろいろな働き方ができるとのことでした。

実際に働いている職員の方からは、「ユニットケアで、一人ひとりのペースに合わせた支援ができる」「経験なしで就職し、働きな



がら介護福祉士の資格を取得。母子家庭で大変なこともあるが、働きやすい環境を作ってもらっている」「他業種からの転職。年齢的に一度で仕事を覚えることが難しいが、エルダー制があつて何度でも教えてくれ、周りにすごく助けられている」「パートとして平日4日1日5時間で働いている。働き方が自分に合っていて、とても充実している」など、自らの経験や仕事の魅力が伝えられました。

受講者からは、「いろいろな前職のある方が働いていることが分かり、自分もがんばろうかなという気持ちになった」「介護の仕事が好きだと改めて感じた。介護業界で働きたい」「介護の資格がなくとも介護補助や介護助手として働けることがわかった」など、就労に向けた前向きな感想が聞かれました。

講座終了後は、受講者の多くが求職登録を行い、今後、キャリア支援員が、就労に向けた個別支援を行うこととしています。

